

次回公開

—— 内容のお知らせ ——

- 座談会 精華・SEIKA・セイカ
- 木野会数珠つなぎ
- Campus Report
- From Kinokai
江戸のかわら版創刊!
- Teachers Voice
- Who's Who
- Information
貧乏人必見! 賞金額決定

野会



特集 TABLE TALK

精華・SEIKA・セイカ

木野会・座談会

開催日▼一九九四年六月五日
会場▼五月祭で賑わう京都精華大学

五月祭 新入生にとって始めて体験する祭、一九七七年に始まり、毎年五月の終りから六月の始め頃に開催される。当初は一部の有志の祭だったこの祭も年々賑わいをみせている。そんな中、京都精華大学に思いをもった方々に出席して頂き、開学当時から未来像の話までさまざまな話題を語り合って頂いた。

新谷●本日はお集まりいただきましてありがとうございます。私たち同窓生にとってみて、社会に出て一定の仕事をするようになると、20〜25年前の在学当時の思い出が甦ってくるが多くて、一度それぞれの思いを語ってもらおう場を作ったらどうかということになり、さらに、現在の学生がどんな気持ちで精華大学に通っているのか、最も若い同窓生に加わって話し合おうということになりました。そして、開学当時、教師と学生という垣根を取り払ったようにお付き合いをさせていただいた先生方にも来ていただきたい。また、ごく最近この大学にお勤めになった先生から現在の学生の様子などについても率直に語っていただけたらというように思っています。では赤坂さんから自己紹介も兼ねて一言ずつお願いできますか。

赤坂●68年絵画の第一期生の赤坂です。赤坂で名簿が一番でして、美術科の中では書類上、初めて精華の門をくぐって入学しました。門からの道だけが舗装されていて、あとは全部赤土でした。マムシ

がいるから入るなという立て看板などもあって、えらい所に来たなというのが第一印象の入学式でした。現在同窓会の会長をやらせてもらっています。

荒賀●68年英文科入学の荒賀でございます。旧姓は青谷と申します。結構名前が目立って困っておりますことも多々ありますが、目立つということでは、在学当時教えられた自由自治と

いうこと、主体性を持って生きなくてはいけないことを教えていただいたおかげで社会の中でも目立ってしまうんです。大学の中で一番貴重だった自由自治、自主性、個性というものが、PTAなどの主婦の間では目立ってしまっって、困ったり不都合かなと思ったりすることもあります。

新谷●それでは開学当初より教鞭を取られている鶴見先生お願いします。

鶴見●68年から精華に勤めています。その当時はまだ建物もわずかしかななくて、



■司会・新谷 一男

確かにマムシに注意してありましたよね。なかなか活発な精神の人たちがおり、一緒にやってみようという気持ちです。

新谷●次に、当時私たちの兄貴のような存在だった藤井さん、お願いできますか。

藤井●69年の9月から勤めて、またたく間に25年の歳月が流れたような気がしますが、今は経理課の仕事をしています。それまでは約20年間、学生課にいます。学生たちとともに過ごし、最初にやったことは大学祭でして、夜遅くまで騒いで、そんな思い出があります。

新谷●それでは最近の卒業生の方々に自



藤井 義昭

己紹介をお願いしようか。

山野●まだ僕が入学したときは電電が単線でした。試験を受けに来たとき、えらい所に来たなあと思いました。大学のイメージと違って、ものすごく小さい、

いったいどんな所かなあと思っていました。入ってからは、学園祭とかも他の大学とは違うなあと思っていただけ、そのうち馴染んでしまっって、普通に思えるようになってきました。しかし、改めて今日来てみたら、「うわあーなんやこの大学」って思ってしまった。

長野●わたしは今年卒業したてのほやほやなんですけれども、入試のときはまだ工事をしている途中でした。電車に乗って着いてみると、緑がいっぱいで、最初はかなり驚いたんですけれど、4年間この近くで下宿して、朝から晩まで大学にどっぷりというかたちだったんです。

新谷●次は、この大学の卒業生でもあって、現在はこの大学で教鞭を取っておられ、今の新しい学生に教えていただいてる佐藤先生をお願いします。

佐藤●80年度の日本画入学です。日本画の二期生なんです。国公立で共通一次が始まり、精華は私立として京都唯一の4年制の美術系の大学となり、非常に活気にあふれた時期でした。

新谷●去年から人文学部で留学生に日本語を教えておられる江口先生をお願いします。

江口●この大学は留学生の割合が高いんです。学部生は中国、台湾、韓国を中心に50数名もいます。

新谷●ありがとうございます。遅れましたが、本日の司会をさせてもらっています。

特集 TABLE TALK

一緒に行ったんだもの

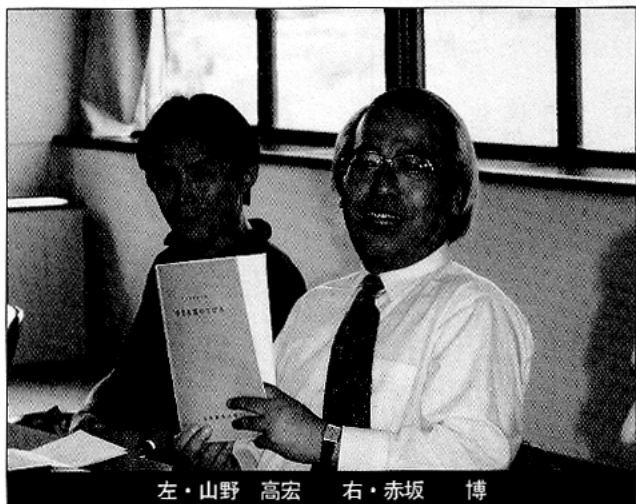
赤坂●開学のときは200人ぐらいで、顔も名前もみんな知っていましたね。教職員も50名もいませんでしたし、鶴見先生は英文なので先生という思いがありませんが、藤井さんとか田所さんなどは兄貴分でした。何よりも僕らのときは先輩がいらないわけですよ。大学というより塾、昔の適塾とかね、ああいう感じでしたね。そんなんでね、僕はこの大学に来たことを後悔したことなんていっぺんもなかったですね。

荒賀●後悔してないということでは私も同じですね。あの時代ちょうど70年安保の時代に入って、いい時代に学生生活を送らせてもらったと、いますごく思うんです。70年の絵画入学の新谷です。あんまり勉強に励んでいたというより、ラグビーをしていつも泥んこになっていました。練習が終わったら食堂に行つてうどんをすすったりして、また、夜になったらみんなよく酒盛りもしましたね。そんな学生生活で、あの時期のことはいまだに捨てがたいものになっていますね。座談会が始まる直前に江口先生が昔の精華のことだとか、今の学生のことだとかをもっと聞きたいとおっしゃっていましたが、

江口●留学生を教えることが多くて、日本人学生といえることが少ないので、そんなところを聞きたいと思っています。

です。玄関前にみんな座つてハンガー・ストライキをしましょうということになって、教職員の方たちといっしょに座つたりして、だけど、いったん教室に入ったら教師と学生というかたちははっきりと取られてましたけど。

赤坂●ちょうど68年入学でしょう。70年安保の年だったんです。若い人に安保なんかの話をすると会社なんかでは馬鹿にされるんですけど、いま思えばいい時代でしたよ。60年安保を経験した教職員の人たちにデモの仕方を教えてもらったりして。



左・山野 高宏 右・赤坂 博

鶴見●一緒に行ったんだもの。教職員が一緒に参加して、他の大学の学生たちは精華ついでいいですねって(笑)。

赤坂●交渉の仕方や、デモの届け出はこうしなさいとか、勉強だけじゃなくて、社会で生きる術をみんなここで教えてもらったようなものです。

藤井●精華でも事務局のバリケード封鎖というのがありましたね。そのとき裏の小窓の鍵が閉まってなくて、そのへんが精華らしくてね(笑)。そこから入って封鎖を解除させて、学生たちと腰を落ち着けて話し合ったということもありましたよ。

新谷●いまの学生はどうですか。政治や

社会の流れに対してどんな感覚を持っているんですか。山野さんは自治会の会長をやっていたみたいやけど。

山野●そういう面では、僕らが何をしてもどうなることでもないと思っただけ。でも一部の学生が湾岸戦争のとき、高島屋の前で座り込んで新聞に載るということもありましたが、アホちゃやうかなあと思ったり、自分はそんな人たちと同じように見られたくないという部分もありましたね。しかし、身近な所で、大学名称変更のときなんか学生大会があった、そのとき反対運動が起こって、それを統括する役をさせてもらったんですけど、結構考えていると思うんです。

鶴見●自分の大学の名前のことなんだから。あのときのエネルギーはすごかったわね。

山野●6時から始まった学生大会は11時ごろまでやり続けて、反対というのが決まって、それを大学側に交渉しに行くというメンバーが決まってからは、一般の学生はさっと引いていくような流れがあ



鶴見 貞子



って、あれはなんだったんかなあと思っ
てしまったなあ。

新谷●その先頭に立ってたんでしょ。その
とき大学側と交渉というか、学生の結
論を伝えるに行くという場面で
はどうだったんですか。

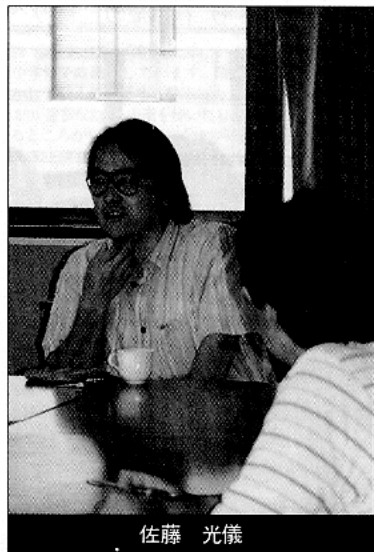
山野●僕は藤井さんや田所
さんとかと相對するという根
性がなくて、普通に話をさせ
てもらおうという考えでした
ね。初めは「反対、反対」っ
て言ってたんですけど、その
うち学生の半分ぐらいがどう
でもええんちゃうと言ひ出し
たりして、長引くうちに話が

なくなっちゃってしまっ

長野●最初は全体の学生が臨
時総会に集まりまして、そう
とう熱くなっていたんですけ
れど、だんだん意見が消極的
になってきて、大学側と対決
するというのはなく、学生
同士で足の引つ張り合いに結
局はなっちゃったのかなあ。
最初のあの勢いは何だったん
だろうって、それが今の学生
なのかなあと思いますね。

鶴見●ちよつと補足するとね、開学当時
の赤坂さんの時代は、事務局の若い人た
ちを飯想先輩として一緒になってこれか
らを作って行こうという部分がないへん
強かったし、何もないところから始まっ
たというのが一番大きな契機だったとい
うことね。去年の卒業生の方たちのお話
を伺うと、20年余りの間に精華の歴史が
できてきて、いま入ってくる学生の方た
ちは自分たちが何かをやったらこうい
うことができるんだという気持ちが少ない
ですね。むしろ、できているものの中か
らそれを享受する立場になっている。25
年のスパンで見ると、そこが違ってきた
なあと思いますね。

新谷●いまのお話しをうなずきながら聞



佐藤 光儀

いておられましたけれど、佐藤先生い
がですか。

佐藤●大学の25年間という中で見ると、
僕が入学してきたのは中間点にあたるこ
ろで、日本画という分野で見ると、ちよ
うどできたころでした。まったく無名で、
自分たちがどこまでやっていけるか、自
分たちでやっていかなければという意識
は強かったですね。施設の面でも、美術
の各科の実習室も一つにかたまっていて、
みんなが仲が良くすごいエネルギーでし
たね。それがいまでは分野ごとの施設も
整備され、学生たちは最初からいいスベ
ースの条件を持っていますね。今度は彼
らは彼らで、その条件をとことん利用し
ていくことが必要ではないかと思ひます。

特集
TABLE
TALK

精華の栄養剤「留学生」

新谷●いままでの話を聞いていて、精華
の25年というのは常に前向きというか、

何か新しいものを模索しながらそれを獲
得していく、拡大していく、そういう歴

史だったように思いますね。いまでも学舎が増設されているし、先程紹介のありました留学生のことも私たちのいたころには考えられなかったことですね。彼ら、彼女らはどんな気持ちで来ているんでしょうか。

江口●どんな気持ちかは本人たちの心を開かないとわかりませんが、留学生たちは優秀ですよ。大学院なども卒業してか来たり、美術だったらその分野で働いていてさらに学ぼうとして来ている。そういう感じですよ。また、学生の方からも留学生に働きかけてくださっているようなこともありますよ。

山野●僕らは人文でしたが、留学生が後期から入ってくるので、ちよつと交流はあまりなかったですね。

鶴見●日本と中国の文学の比較をやっているときに、中国の学生もいるわけで緊張しますが、面白いこともあるんですよ。誰でも知っているような漢詩を黒板に書いて、留学生に中国語で読んでもらうんです。とてもきれいに聞こえるわけね。



江口 英子

日本の学生は改めて、ああつと思うわけね。留学生がいるとクラスが活気づいておられますよ。美術の方もそうじゃない？

佐藤●学年に一人ぐらゐの割合でいますよ。中国とか韓国とかでは水墨画の流れがあつて、ある程度向こうで作家として活動している人もいて、僕よりも年上という学生もいますよ。子供のころから筆で描いていて、墨で描くことが身についでいて、筆を鉛筆に変えてデッサンすると彼らの腕がにぶるといふような感じはあります。しかし、もともと彼らの持っていた持ち味というのが出て来て、何かプラスしたようなものも出て来ますね。

藤井●僕がかかっていることで言えば、大学が奨学金を出しているんですね。いま60名弱いて、全学生の2パーセントぐらゐ在籍していますね。これは他の大学よりかなり高いと思いますよ。国からと大学からと留学生に援助金を支給しているんですよ。

江口●日本へ来る留学生が多くなってきて、精華もそうだけど、そういう動きの中で、日本で勉強したいという人を受け入れようではないか、という流れが実現してきたのではないですか。

赤坂●卒業生として大学に対するかわり方なんかを考えてみると、留学生に対しても協力できることはないのかなあと思いますね。

特集
TABLE
TALK

'96年度に総工費72億円で完成

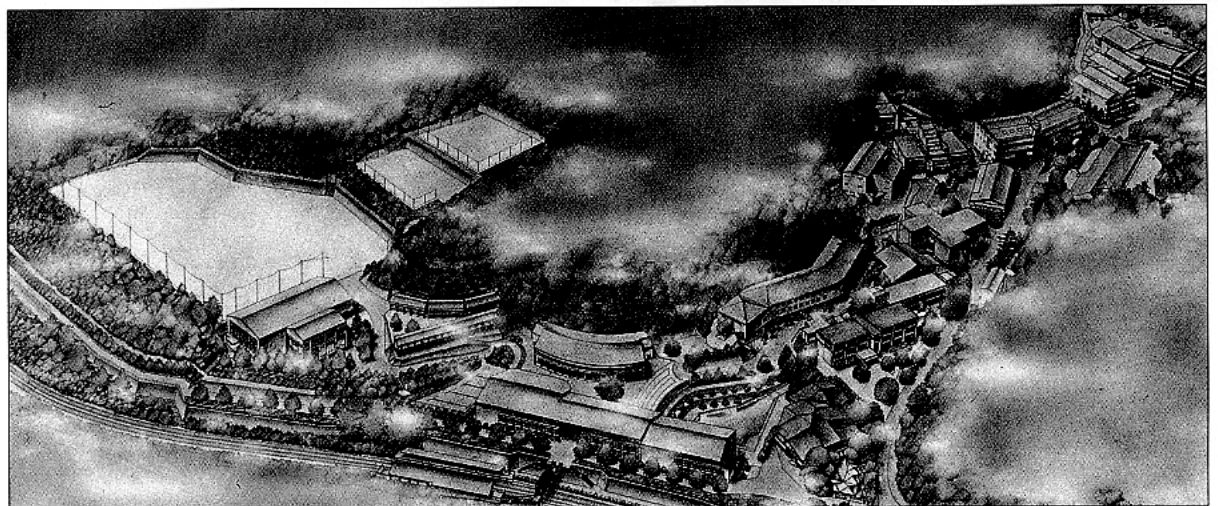
新谷●精華がどうあるべきかみたいな話も含めて、最初は赤土であつた所が工事が始まつているように、これからの精華がどのようになっていくか未来図のようなどころも話してもらえませんか。

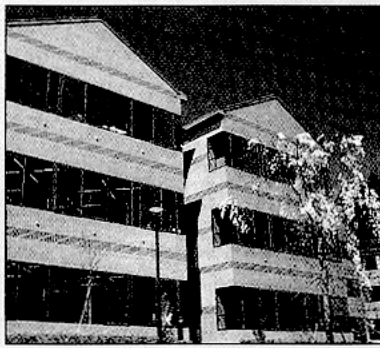
藤井●学長や理事長の立場ではないのですが(笑)、ここに校舎の完成図を持つて来ています。あと3年間、'96年度

に総工費72億円で完成の予定です。体育館とか、テニス・コート、新しい図書館や厚生棟など、いままで不足していたものをちゃんと建てる計画です。

赤坂●すごい工事ですが、環境問題、開発に伴う問題はなかったのですか。

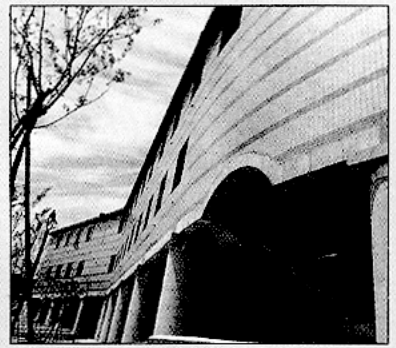
藤井●当然ありました。長い時間をかけて論議し、対策も考えてきました。





■風光館 (ビジュアルコミュニケーションデザイン・マンガ・建築・陶芸)

■5号館 (日本画)



■流深館 (人文学部 研究室・演習室)



荒賀依右子

学の精神に立ってこれを受け継いでほしいですね。

新谷●いままでの話を聞いてみて、常に前進している、新しい不自由さを克服しながらそれを乗り越えてだんだん大きく成長していつに、そんな感想を持つんです。最後にこれだけは言っておきたいという方はいらっしゃいませんか。

赤坂●その前に江口先生に聞きたいのですが、他のメンバーは精華を卒業してずっとかわっています、先生は一昨年来られたわけですよ。他の大学との違いみたいなものを感じておられますか。

江口●前に行っていた大学は女子大で、一応「先生」と学生から呼ばれていたんですが、精華へ来てしばらくしたときに研究室のドアをパツと開けて、「江口さんいる?」と言って男子学生が入ってくるんです。今までの話をうかがって、ああ、なるほどなってわかる気がします。

新谷●いまのお二人の話を聞いてみて、荒賀さんがおっしゃっていた精神的な部分で学んできたというようなことが、若

い人も根本のところでは僕らと共通しているんですね。荒賀●そうですね。やっぱりソフト面で自由自治の精神ということで進歩しなくてはと思いますね。他の大

特集 TABLE TALK

受け継がれる精華建学の精神「自由自治」

鶴見●工事に入る前に、どういう植物が生えていたか全部調べて、建物が建ったあと現状に戻すようにするようにね。
新谷●ただ植樹するだけでなく、自然の昔の体系に戻そうと努力されているんですね。こういったことを5年後、10年後に伝えていかなあかんわけですが、新しいお二人にとってこれからの精華に期待するものは何ですか。
山野●施設計画については思い入れがありまして、自治会長としても学生が使う所のプランを検討していたんです。しかし、僕らが使おうときにはまだ完成していません。けれども大学というのは施設ではなく、クラブとかサークルで活動する

のが一番精華らしいことだと思っんです。
新谷●長野さんは吹奏楽部のキャプテンをされていたんですね。
長野●そうですね。自分たちが作ったのではなくて、一年先輩が作られたのです。施設のことなんてですけど、まだ十分にそろってなくて不便さというのを感じることもあると思います、それは大学にいる時間が長いということではないですか。何でも揃ってしまおうと他の大学と同じになっちゃって、精神的なもので変わらなくなってしまうのではないのでしょうか。



長野 友紀

たり、精華っていうのはこう違うんだよ
っていうところを見えるかたちで作って
いただきたいと思えますね。

新谷●ありがとうございます。やっぱり
同窓会ができたということが、こうい
うふうになら直に話ができる場、交流がで
きる場、どこかで卒業生同志が結び会え
る場を作っていける、そんな土台みたい
なものができたんだなあということ、
今日の座談会を通して感じました。これ
で終わりにさせていただきます。本日は
お忙しい中、ありがとうございます。

■出席者

- 鶴見 貞子 (人文学部教授、比較文化概論)
 - 江口 英子 (人文学部専任講師、日本語)
 - 佐藤 光儀 (美術学部専任講師、日本画、80
年度美術学部日本画入学)
 - 藤井 義昭 (事務局経理課)
 - 赤坂 博 (68年度美術科絵画入学、木野
会会長)
 - 荒賀依右子 (68年度英語英文科入学、木野
(旧姓喜良倉) 会副会長)
 - 山野 高宏 (89年度人文学部入学、元自治
会長、木野会評議員)
 - 長野 友紀 (90年度美術学部ウィジュアル
デザイン入学、元吹奏楽部キ
ャプテン)
- 司会
新谷 一男 (70年度美術科絵画入学、木野
会理事)

京都精華大学木野会

第1回

数珠つなぎ

だるまさんがころんだ”始めの一步、英文科二期生一番”
●精華大学英文科の一番さんから、同窓生、職員を交えて、数珠つなぎに紹介して行って頂きます。



①68 E 林 直子 (旧姓 相原)
●千葉印旛郡在住。同業パート (通算十年)
●転勤族の為、引越し4回以上
●根なし草の生活をしながら、転居の先々でし
っかり根をおろしてきました。これからは、心と
頭に力ビが生えない様に考えています。



②68 E 野村久子 (旧姓 岡本久)
●京都市左京区在住
●私は一男一女の母となり、すっかり座敷敷と
なっていました。今はせせたいくで
ダイエットに一生懸命です。



③68 E 黒田妙子 (旧姓 塩見)
●京都府福知山市在住
●電器店の奥さんをしています。
●只今、中3を頭に小6・小4の三人の子供に
奮闘中!!でも目も過当に運動して楽しんでい
ます。主人は頑張ってます。



④68 E 高橋洋子 (旧姓 山形)
●広島市在住
●協栄生命保険 (株) 勤務
●アジア大会が10月から広島であり、そのため
街がきれいに変わってきています。一度、広島に
来てみて下さい。



⑤69 D 平尾律子 (旧姓 新池)
●東京都港区在住
●主婦
●卒業の年に結婚して、主婦一筋の23年が過ぎ
ました。ここ10年位は短大時代に始めた卓球に
勤しんでいます。



⑥69 D 森下みゆ (旧姓 吉岡)
●大阪府藤井寺市在住
●アートフラワー教室リウ勤務
●現在私はブライダルブローカー、アートフラワー
等のフラワーデザイナーの教室を開いています。
●色という魔物と悪魔教師の毎日です。

■次号は 69 T 福田妙子 (旧姓 北河) さんから

TEACHERS VOICE

先生はいま…



外から見た日本

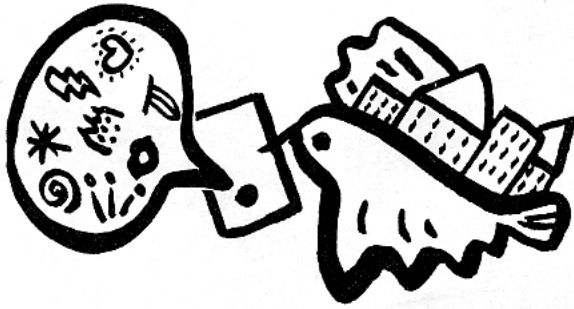
長谷川治清
(元英語英文科助教授)

精華大学を1990年に辞め、ロンドンから2時間15分ほどの町にある、シエフィールド大学の日本研究所で教えております。ここでは、日本に関するいろいろな研究を致しております。イギリスで日本を研究するというと、何故イギリスで、と思われるかもしれませんが、一言で言えば、外から、とりわけヨーロッパの視点から日本を観察し、考えると思っただければ良いでしょう。また、その意義は、日本にいと見えないものが見えてくる事です。その様なわけで、私は産業の盛衰を背景に、企業の組織やそこで働く人々の生活をイギリスと日本で比較する研究をしております。

ところで、4年間イギリスに住み、この国とこの国民に付いて思う事は、まずこの社会は人間の本能を素直に認めたくなくて、社会を運営している大人の国である事。また、個人間の競争が激しい反面、人々は、他人にたいする思いやりが深く、親切です。確かに、経済の衰退に伴い社会問題も多様化し、深刻になって来ていますが、イギリス国民はそれらの問題を解決していくだけの経験、知識、良識を持っているように思われます。

外から見た日本について思うことは、アジアと世界で孤立しないような国際感覚と常識を養う必要があるのではないかと、またそのために人間関係が真の意味で対等なものになる必要があるのではないかと、これは、日本の多くの優れた点を承知の上での、願望的コメントです。

卒業生の皆様を懐かしみつつ、シエフィールドにて。
1994・8・5



やっぱり大きいほうがいい

鹿間厚次郎
(元、美術学部立体構成講師)

風呂敷と夢は、大きいほうが良いといわれます。わたしは、作品も大きいほうがいいと思っていますが、ABCギヤラリーの条件は、ギヤラリーのスペースに対し作品総重量は2tまでという制限がきました。私の従来の発表方法は、石の持つ重さ、大きさを感じさせるものですが、今回は、大きいことはいいことだ」と大石を搬入することが出来なくなり、はたと困りました。窮すれば通ずる。人間は、困ったときはまた新しい柔軟な考えが浮ぶようです。私も一つの条件に対して困ったと思うよりも、この条件を要因としていい発想が持てるかもしれないと思っておし、私の中にある限られた美的尺度で思考せず、アイデアを練り、自由で開放された気分で制作をしたいも

のと努めました。便利さや合理性だけの尺度でない、関西の風土(人情、——)が持つ独特の魅力を十分に生かし、感じながら、手のひらに乗る程の大きさの石から、200kg程の石まで、様々な大きさの石を彫り、それらが167個の展示個数になりました。

だからといって小さな石の作品が、小さな石の塊で発想したものではなく、大風呂敷よろしく作品に対する私の夢(思い)は、1kmくらいの広さのあるスペースにこれらの彫刻群をならべたと設定してみました。

作品が実際に100倍の大きさに完成すれば、実に愉快な気分になるなあ!と夢を大きくふくらませています。1994・7・15
ABCギヤラリーにて



友人との出会い

辻 節子
人文学部専任講師

ここ数年人文学部のフィールドワークに関わって後期は学生と動

き回っています。文字どおりの体験主義、人々の生活の現実から学

ぼうというこのプログラムのアメリカ・フィールドを担当しています。アメリカについての情報は溢れていて日本に居てもよく知っているつもりになりがちですが、実は案外限られた内容の似たような種類のものが繰り返されている。学生たちは行ってみてメディアの伝えるアメリカ像とその実際のズレを体で感じます。

プログラムのベースはオハイオ州、小さいけれど実験的教育やリアルな伝統で知られるアンティオク大学です。授業の多くはディスカッション形式です。寮生活や課外活動、週末のパーティーまでとにかく各人が考えを交換することからすべて物ごとが動く。今までとかく周囲と違わないような心がけてきた日本の学生には、個性強い学生たちとの生活はなかなかの緊張です。ところが寮生活でテレビもなければ近くに盛り場が



脳裏に浮ぶ映像

事務局教務課 上々手良夫

84年から精華の事務局に勤め始めて、満10年が経過しました。この間に何人の学生と時をともに過ごし、それらの方々が卒業生として社会に出ていかれたかと思うと10年という歲月も決して短くはないと思います。この10年、自分自

あるわけがなし。結局人とつきあうには自分のことをしゃべって相手のことを聞いてと三カ月の学期を過ごす。日本に居た時こんな自分のこと一息懸命話したり人の話聞いたこと無かった。と学生たちはよく言います。今まで「あたりまえ」としてきたことが揺さぶられるアンティオクでの生活です。



フィールド・トリップでワシントンDCやサウス・カロライナ、カリフォルニアへも出かけます。それぞれの地で、多様な文化や価値の共存できる社会をめざして動いているグループやコミュニティを

身が精華にどんな関わり方ができたんだろう、そんなことも時として考えることがあります。それぞれの卒業生の方々が、母校精華を思い出される時、それぞ

訪れます。このうちサウス・カロライナへの旅について少し話しましょう。サウス・カロライナ州からジョージア州にわたる大西洋岸に点在するシー・アイランド諸島。アフリカから連れて来られた黒人たちが奴隷制を生きぬき独特の共同体を作ってきた地です。セント・ヘレナの秋の祭はアフリカからここに達し四百年を生きのびた人々とその文化を祝うものです。伝統豊かな音楽と踊り、海の幸あふれる土地の料理。楽しいこの集いのなかにも人々が真剣に探るのは、日々島の暮らしを壊してゆく「リゾート開発」への対抗手段、それに代わる未来です。島には門衛の立つゲートに守られホテル、コンドミニアムが広がり、先祖伝来のわずかな土地を耕し生きてきた人々を締め出してそびえ建っています。この状況のもとで島に生き続ける道を探る黒人コミュニティ

ようが、その映像はおそらく精華の学生であった時代のエッセンスなんだろうと思います。私自身の学生時代を思い起こすとき、様々な映像が浮びます。真っ先に浮ぶ映像は、卒業研究で世話になった教室の談話機。この机で連日夜中まで先生の専門1に

対し雑学9の割合で構成される話に聞き入った日々がありました。鍋を囲んだ学生寮の部屋。クラブの合宿用タコ部屋。毎朝笑顔で登校を迎えてくれた守衛さん。なぜか不得意科目の試験を受けている

イの人々との出会いは私たちに強烈な印象と大きな課題を与えます。地元の歴史や生活をズタズタにしでなされる開発って何だろう。土地の人の力とならない発展とは。沖縄で似た光景見たけど何も感じなかった。アジアで起こってるこ

場面とともに思い出される教室。そんな数々の映像の中に、教務課の窓口の映像もあります。普通の学生にはあまり残らない映像なんでしょうが、成績不振学生であった私は、しばしば教務課へ試験の結果を尋ねに行った記憶があります。薄暗い廊下の窓口の向こうに緊張して結果を待つ私に誠実に対応してくれた教務課の職員の方の姿が今でも思い出されます。学生時代は成績の管理だけをしていると思っていた教務課。そんな私が今教務課の職員をしていると思うと妙なものです。自分が直接的にしろ間接的にしろ、なんらかの形で「映像」づくりに関わっているとしたら、これはやっぱり大変な事実なんだと思わなければならぬことになります。それはともかく、木野会の方々には、精華でつくった映像を心の故郷にして、一層のご活躍をお祈りしたいと思っています。

少々堅い話になりましたので、話を別のところに移したいと思いますが、職員をしていて、学生から影響を受けるということも、様々なところであります。吹奏楽に覚えのある私が、人文学部1期

と私たちの関係。大西洋のその向こう側の海を見ながら思いを深くしたのは私たち自身の社会や日常に對してでした。外へ出ることに新しい友人との出会いをもたらすと同時に、私たち自身の内へと新しい眼を開かせてくれるのです。

生たちが精華に初めて吹奏楽部をつくったとき、長らく中断していた吹奏楽活動を私は再開することになりました。年齢の差をこえて音楽を通して学生諸君と付き合う日々を体験できたことは、私に大きな影響を与えてくれました。精華の学生たちは、私にそういう立場でクラブ活動に参画することを許してくれました。卒業式で演奏したことで、木野会で演奏の機会を与えていただいたことも記憶に新たなところで。現在、私は吹奏楽部の活動には直接関わっていませんが、RAM吹奏楽団という市民バンドで団長という雑用職をしており、バンドには2人の卒業生も籍をおいてくれています。精華の学生がいなかったらこんなことになってはいなかったと思っ

ますし、家内も練習で留守がちな私を見て、別の意味でそう思っていることでしょう。今でも精華の吹奏楽部からは定期演奏会に出演を依頼され、いい年をしてノコノコとステージが上がっています。卒業生の方々の中で、楽器好きの方、また連絡をください。お待ちしています。



針煙フィールドワーク『森のことば』

美術学部 教授 丸谷 彰

卒業生のみなさん、お元気ですか。

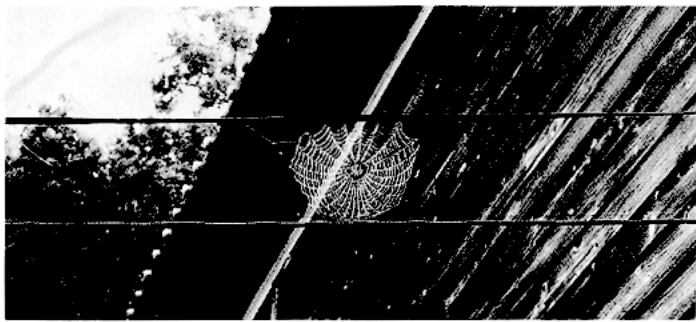
この夏の暑さにはほとほと閉口です。昨日は五山の送り火。さすが、夜の風は少し冷たく虫の聲も聞こえます。朝顔の葉をバツタが喰いあらし、いつもの夏の終り。下鴨神社の古書市を訪れると、卒業生の入江君、人文の遠藤さんと出会ったりしました。都ホテルで開かれた総会、この春は三期生の会があり、懐かしい顔で昔へ引き戻されました。

朽木村を訪れるようになって二十十年になります。山の家も様変わりしました。梅の木までの道路もトンネルがいくつもでき、むかしの峠はありません。道は拡張され、川は河川改修で淵も消えつつあります。

針煙でのフィールド・ワークのなかから、二、三の道具を紹介しましょう。

ヘコキバシ 麻の繊維の表皮を川の中で取り除くためのもの。人差し指と親指の間にはさみ使用する。材料はシノブタケとフジの蔓。麻の芋を作るために女性の仕事として必需品のひとつであったが、使う人の指の大きさに合わせて作らないといけない。これをつくる

のが夫である。妻の手の大きさにそって作る。もともと「モノをつくる」とは、家族の体のサイズに合わせて作った。手も足も丈も、そのサイズが体の中に記憶している。これを人間尺というのだろう。へべフミオケ 灯火用油を作るために、木の実を蒸して鬼皮を



素足で踏みながら取り去る。初冬の冷たい河原で、水を取り替えながらくりかえすための桶。これも女性の仕事。油の着いた素足を実（鬼皮をとると銀杏のように堅いとがった実がでてくる）で傷つける。この仕事は油づくりのなかで最もつらいことである。

〈大根煙のセガキ〉 小さな煙に大根の葉が芽を出す。お寺から授かったセガキの紙を麻木にさして大根煙にたてる。虫に喰われぬためのおまじない。かつての生活には、森や川、虫や草木と語り合えた言葉を持ちそなえていたにちがいない。鳥の鳴き声で生活の暦が生きていた。森の生活で、豊かな言葉（音）を体の中に記憶している。これを自然言語というのだろう。

便利さを求め、効率を良くするために技術が進み、道具を獲得してきたはずなのに、一方では「忙しくするために」といった現象がみられます。また、人間尺や自然言語については退化現象が知らぬ間に進行しているともいえます。拡張の外で縮小という皮肉なことに陥っているように思えるのですが、みなさん、お元気で。セイカを盛り上げてください、さようなら。



Who's Who

◆飛翔する卒業生達◆

精華
マイスト
満開

「精華人ならあたりまえ」



滋賀県信楽町に卒業生がたくさん住んでいるという情報が入り、私達は早速、信楽へとび、精華の想い出を語って頂いた。名簿でみると三十人位在住のようだが、今回は、加藤氏の工場やマタツ陶業の一室を借り、八人出席して頂いた。学年も学部も異なるが、もうそこは精華のキャンパスと化し、まるで同級生であるかの様に話が弾んだ。ファッションから名物先生のエピソードなど。

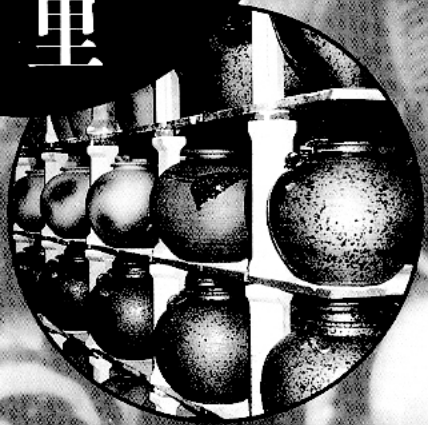
入試前日、下見に大学を訪れた時、立体造形の教室を捜すべく山へ登って行った。そこには粗末なドカチンの工事現場があり、髭ぼうぼうで頭はボサボサ、ベルトは縄という出立ちの大林(先生)さんが突然現れ、おまけに泰造(先生)さんがその場を横切った。てっきりまだ工事中だと思っていたら入学して先生方だと知らされ腰が抜ける程の驚きだったそうだ。又ここで酒の話も出たが、飲酒は精華では日常茶飯事のように酒にまつわるエピソードは語りきれないというよりも、語れない様だ(笑?)服装においても精華ファッションは他の大学と比べて、とても個性的だった様だ。そのまま雑誌から出てきたという様なスタイルではなく、何か自分の主張というものを表現していた。ただの目立ちたがり屋もいたが…。70年代すでにスキンヘッドの女子学生もいたそうだ。精華のいい所は、自分から動いて何かを見付け出したり造り出したりしないと何も身につかないのだということを感じさせてくれる先生がたくさんいたということ。又問題にぶつかればちゃんとサポートもしてくれる。何かを造り出すという精華マインドが今の仕事にも繁栄しているのではないだろうか。今は大学の校舎も綺麗でスケールが大きくなってきているが、精華の在学生に精華マインドは、生きつづけているのだろうか。私達の時代は、何も与えられるものがなかった分、自由や個性が作り出された。

彼らは、今、信楽に住んでいるが、精華でつかわれた精神が、今もこの陶芸の町「信楽」に根づいている。大自然に囲まれ、子育ての場としても最高の地で、いきいきと活躍されている様子がうかがえた。不思議な一体感、同窓会だから味わえる安心感、昔話に時間の過ぎるものも忘れてしまった。

●文中に登場した先生方

村上泰造 教授 (立体造形)
大林義満 元講師 (立体造形)

信楽の里
ここは木野会
頑張り村



Who's Who

◆飛翔する卒業生達◆



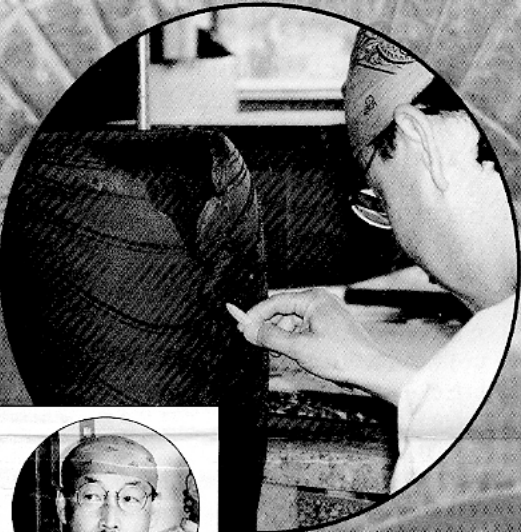
●加藤良一

①72年デザイン ②信楽出身 ③製陶業 ④京阪神からわずか1時間関西の奥座敷と言われるほどすばらしく環境が良く夏は大変涼しい所です。是非一度ご家族でドライブがらお寄り下さい。大きなタヌキがおむかえします。良い所：水・空気がおいしく環境バツグン。悪い所：折角のすばらしい製品が流通に乗りにくい。マーケティングの弱い所があります。⑤奥が深い芸術です。⑥本当！自由な学風の学校でした。⑦毎年、同窓会に顔をだしているのですが、校舎のきれいなようになったのと大きくなったのを見て、今の生徒さんがうらやましいです。(昔にもどりたい)



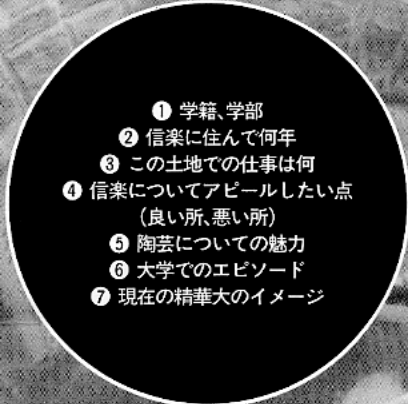
●杉本泰彦

①76年立体造形 ②信楽出身 ③陶芸業 ④悪いことはかりして、とても懐かしく一生の思い出です。 ⑤あまり行けないのですがとても懐かしいです。



●山谷泰彦

①72年デザイン ②西陣で帯の図案を9年修業し、独立したが、加藤氏と再開して二足の草鞋を履いていたが陶器信楽の方に一本化して今にいたる。③陶芸家 ④帯の仕事は図案を描いてはいるが、多数の人の手を経て出来あがり、仕上りを見る機会も少なく何百本も知らない間に出荷されるその点、今の仕事は手についたものが、最後の出荷まで見とげられ、自分の作品であるという実感が魅力である。⑤配達されたてのパンをガオクして、皆で食べた。



- ① 学籍、学部
- ② 信楽に住んで何年
- ③ この土地での仕事は何
- ④ 信楽についてアピールしたい点 (良い所、悪い所)
- ⑤ 陶芸についての魅力
- ⑥ 大学でのエピソード
- ⑦ 現在の精華大のイメージ

●石野千尋 (旧姓 加藤真理子)



①71年デザイン ②15年 結婚した為 ③陶器創作陶人形の作品 ④造物の町なので、動いても見ても楽しい事がいっぱいあります。物を造ることで、暮らしていける場所なので充実しております。良い所…空気・水・自然環境 悪い所…交通の便が悪い、やや排他的 ⑤おもしろい、最高！ ⑥学園祭で徹夜した。ペンキで落書きした。学長室で酒盛りをした。宿題が多く、バイトが大変だった。でもとにかく楽しかった、もう一度、もどりたい。 ⑦毎年、同窓会に行くのですが、学生がおとなしくなった様な感じがします。我々の在学中は個性の強い人が多くやりだすとメチャクチャしたものです。

●北島庸子 (旧姓 武田)



①73年立体造形 ②信楽出身 (途中、大津にいました) ③大津の小学校で教師をしています。精華で習ったことを生かして教えています。④陶器だけでなく、山などの自然が豊富なため、山道を歩いたりバイクで走ったりするところがいっぱい。とくに、河原や山などを利用して、モトクロスの練習なども楽しめそうです。自然環境がとても良いため、子育てにはバツグンのところ。ただし、子供が大きくなるにつれ交通の便が悪くなることも多くなる。⑤土をさわることの気持ち良さ、焼きあがった作品との出会いの瞬間の心のときめき……かな。⑥立体造形が得意、初めてのクラスだったので、上級生もなかった。それでよく、先生が豚一頭どこからともなく持って来られ教室の前で、まる焼きにした学校で使う大きな鉄板で、むしった野菜をバーベキュー(といえるかな?)をしながら大きいわき!! また、寮生活では、夜中に、男の人の格好をして、堀を乗り越え、雪道をとぼとぼ三条のあたりまで歩いて、ライブハウスへなんてことも……。⑦現在の様子はあまり知りませんが、昔のように学生たちが生き生きと活動してほしいと思います。

●中川通代 (旧姓 藤林)



①77年洋画 ②8年 結婚して ③現在は主婦 ④良い所…自然に恵まれ、のんびり過ごせる、子育てにとっても良い所。悪い所…行動力がないと、小さな人間になってしまう。⑤思い出は多すぎてどれを取り上げればいいか迷うほど、とにかくキ・ミ・ヨ・ウな学校でしたが、本当にビックリしたのは、五月祭の時、黒BOXだったか赤BOXだったかが燃やされたことなど。⑦大人になったなアという感じ。



●山本佳代 (旧姓 中田)



①78年洋画 ②10年 信楽の主人(長男)と結婚したため、帰ってきた。③与板壁画の原画デザイン フラワー企画(有)はなおか ④都会でもなく、田舎でもない所。付き合いが、派手。⑤十数年ぶりに、筆を持って、自分の作品が大きな壁画になり、地方を旅行した時目にするのを夢見て仕事しています。陶器と云うより、自分の絵が大きな絵になると云う満足感かな? ⑥京都の祭りがある時は、授業がなかった事、それと知らずに学校へ行き、森本先生に美祭につれて行ってもらった。この大学で主人と出会い結婚した。入学後すぐグループ交際、8対8で初まり、いつも仲が良く、その中で結婚しているのは私達だけです。百万遍の寮(現、コンピュータ学舎)にて、主人が寮に入って来たりして……藤井さんに目をつけられていた。⑦昔の自由な感じが今もあるのだろうか? なんか、硬くなっているような気がします。



●山本 克

①78年洋画
②信楽出身
③製陶業 陶器に対する新しい物を求めて、機械ロク口成型ライン等のロボット化を研究中。
④産成の過程が半分以上、窯まかせの所。

「一動一静」

89 L 満林晃典

僕は、土山まもない、また駆け出しの雲水だ。運動好きの僕は僧堂でも暇を見つけて身体を動かしている。僧堂でできる運動はしているが、運動をしないと自分の身体が自分のものでなくなる様で、そついう時はきまって気持ちも落ち着かない。身体を動かすと、プラグをつなげる様に、意識と忘れてしまっていた身体がつながって自分を取り戻していく。たまに新しい身体を発見した時はうれしいものだ。動きのない坐禅でも、しびれて感覚のなくなった足は、ちゃんと自覚される。自覚された所が何となくぼわつと大きくなる様でおもしろい。僧堂は一動一静、身体に厳しい所だ。

喜寿を迎える老師の身体は、いつも整っていて乱れた所を見た事がない。僕は歩くことすらうまくいかない。肉体の若さだけで僧堂の身体はできないよ。しかし頭では何も解からない。変化のない毎日の修業が、ゆつくりと流れる時間の中で変化を産むのだろう。坐禅も少しスポーツに似ている。

日泰寺にて94夏

貧乏人必見!

「表紙デザイン・文中カット、賞金額決定!」

創刊号では、お知らせすることができなかった表紙デザイン・文中カットの賞金額・賞品が決まりました。京都精華大学の伝統ともいえる貧乏。在学当時を思い出して、賞金獲得にチャレンジしてみたいかがですか。

会報誌名称については、色々案があげられたのですが、校章も校歌も無い自由自治の我が精華の同窓会会報に、あえて、名称を早急に決定するのも心苦しく、良い名称が見つかるまで当面ナシではどうかということになりました。

表紙全面を、思い切りあなたの絵・デザインで飾ってください。

また、文中に使えるカット画も気軽に寄せてください。

●賞金・賞品

表紙デザイン 1点…3万円

文中、使用カット 1点に付…テレホンカード

●応募方法

サイズ：縦25.7cm×横18.2cm

技法：イラスト画、写真、版画など自由。ただし色は一色刷です。

作品の裏には必ず作品のタイトル・コメント・住所・氏名・学籍番号・電話番号を記入して下さい。

●締め切り 平成7年4月末日必着

●宛先

〒606 京都市左京区岩倉木野町137
京都精華大学同窓会木野会
「会報 表紙デザイン」係

木野会から

「本号から会員のみ配布」

創刊号で、告知致しましたように、木野会会報誌は、今回から会員のみ配布致しました。

今後、木野会の運営・会報誌の充実を計るため、一人でも多くの方に木野会への参加を望んでいます。この会報誌の届いていない未入会のお友達をぜひお誘い下さい。

●入会方法

郵便局備付けの振込み代金先方払い(赤枠)の用紙に学籍番号(入学年

度、学部、学科)、住所、氏名(旧姓)電話番号を記入の上、終身会費1万円をお振込みください。

口座番号：京都 0・42332

金額：10,000円

京都精華大学同窓会木野会 宛

「ご投稿のお願い」

○木野会会報にふさわしい新コーナーのアイデアを募集しています。

○「Who's Who」のコーナーへの投稿・取材依頼、お待ちしております。

○展覧会、個展、イベント等の広報コーナー充実の為情報をお寄せ下さい。

○「This is my space」コーナーにお店や教室等広告を希望される方は御一報下さい。

「お願い」

卒業生宛の郵便物が転居、住所表示変更などのため返送されてくる場合がかなりあり、多くの卒業生が消息不明のままになっています。お友達の中で「木野通信」や木野会に入会しているのに「会報」等が届いていないという方がおられるようでしたら、必ず同窓会「木野会」事務局まで、その方の氏名(学籍番号)と変更された住所をご一報ください。

また、問い合わせ等がございましたら、ご遠慮なく「木野会」事務局までご連絡ください。

お知らせ

「ニューウェーブ アート実験展」

本誌「TEACHERS VOICE」で登場して頂いた、鹿間厚次郎先生の企画で、来年早々に「アート実験展」が開かれる。

陶芸家 ガラス工芸家 彫刻家 木工芸家など多分野の作家41名が、10号(45.5cm×53cm)の大きさの壁面に文字通り実験的な作品に挑む、精華大学新旧卒業生も数名出品予定是非御高覧下さい。

とき：'95年1月9日(月)～1月18日(水) 会期中無休

ところ：大和ギャラリー

大阪市阿部野区阿部野筋4-18-30 ☎06(652)3256
地下鉄谷町線阿倍野⑥出口

「この指とまれ 団員募集」

このほど吹奏学部OBが中心となって、吹奏楽団「セイカ・ウインド・ソサエティ」を旗揚げ、音楽を通じて楽しめる仲間を募集している。現在この楽団結成を企画したOBの井上一明氏('89L)を含む大学院生や会社員らが毎週木曜日の夜に練習を重ねている。

11月の木野祭で初コンサートを開く予定。

木野祭での初コンサートに、是非お出掛け下さい。

入会の問い合わせは、山岡寛さん ☎075(702)6809

総会のご案内

「第7回 木野会総会」

とき：1994年11月3日(木祝)

午後2時～

ところ：京都精華大学・明窓館

懇親会：午後3時～5時

本館3F

大学では例年通り「木野祭」開催中です。近年模擬店も一段と盛り上がりを見せています。久しぶりに学生気分に戻って、秋の木野をお友達といっしょに観電精華大学前で降りてみてください。

編集後記

厳しい夏でしたね。皆さまお変わりなくお元気でしょうか。

第2号もここにお届けする事が出来、この上ない喜びです。

ただ今号から会員のみ配布という制限つきなのが少々心残りではありますが、年々発行部数が増えてゆく事を願ってやみません。

創刊号にはない試みをいくつか企画していますが如何だったでしょうか。先号にも増して沢山のの方々のご協力を頂き、本当に有難く思っています。今後とも宜しくお願い致します。

●京都精華大学同窓会 木野会

〒606

京都市左京区岩倉木野町137

TEL.(075)702-5201

FAX.(075)722-0838